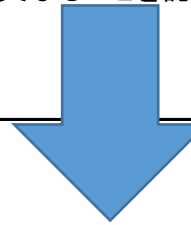


重点取組分野		具体的取組
確かな学力	①校内での授業研究・教材研究を進め、子どもが問題解決のために必要なことを自分なりに考え、自己を表現する力を身に付けることができるようにする。②学力・学習状況調査等を分析、活用して実態を把握し、個に応じた指導を進める。③国語や算数等の知識・技能の習得を図るため、朝15分間の学習時間帯を活用する。	
担当	研究研修部	

学力向上に関わる本校の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・週三～四回、朝学習の時間に基礎基本の定着を図るためのドリル学習を中心に行ってきた。そのため朝学習に向かう姿勢は定着している。 ・全体的に学習は市の平均を下回る。学習に対する意識は学年により多少のばらつきはあるものの、やや高く、前向きに考えられる児童が多い。

今年度の目標
問題解決のために必要なことを自分なりに考え、自分の思いを伸びやかに表現できることをめざす。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の確認を丁寧に進める。 ・昨年度の学状をもとに、基礎基本の定着を図るとともに各教科で不得手とする分野を分析する。 分析結果から学習の進め方、教材の精選を学年や低・中・高のブロックの共通理解のもと学習活動を実践する。 ・高学年では教科担任制を取り入れ、教科の専門性を生かした授業実践を行う。 ・自分なりに考えや思いを伸びやかに表現できるように、児童のできるという気持ちを引き出す工夫を図り、自己肯定感をもてるようにする。そのために、児童の努力点や達成点などを教職員が積極的に本人に伝えること、周囲への発信をすることで実現につなげる。 ・児童の実態により目的達成度が異なることを認識し、スモールステップでよいことを児童及び保護者ら向けでも発信する。
 <p>年間を通して実践していく</p>	
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習活動を中心に児童の発表の場を意図的に設定する。 ・表現週間に向けての取り組みを通して、問題解決のために互いの考えを共有しながら自分の思いを表現できるようにする。